

書名	普及版 法隆寺			著者名	西岡 常一、宮上 茂隆、穂積 和夫／著			
出版社	草思社	ISBN	978-4-7942-2671-6	本体価格	¥1,500	発売	2023/7/7	
内容	世界最古の木造建築である法隆寺に込められた、古代日本人の技術と知恵を、豊富なイラストと分かりやすい文章で徹底解説！これは、法隆寺の解体修理にあたった棟梁と、建築史家と、建築科の出であるイラストレーターの三人が協力して、法隆寺がどのようにして建てられたかという難しい問題を解き明かした本です。この本をとおして、私たちは古代日本人の技術や知恵が想像以上にすぐれたものであったことを知るでしょう。							

書名	作家たちの遺香			著者名	宮本 和義／著			
出版社	アトリエM5	ISBN	978-4-9913117-0-3	本体価格	¥1,500	発売	2023/7/10	
内容	近世、近代の小説家、歌人、俳人たちの生家、旧居を訪ねた記録である。有名作家だけでなく一般的には知名度が低い歌人の生家など趣ある住宅建築が顔を並べ、静謐なモノクロ写真がその空気感を良く伝える。もう一つの旅の目的を示す一冊でもある。 志賀直哉、山岡荘八：旧居(奈良県奈良市)							

書名	古事記に秘められた聖地・神社の謎			著者名	三橋健／著			
出版社	ウェッジ	ISBN	978-4-86310-266-8	本体価格	¥1,300	発売	2023/7/20	
内容	太安万侶没後1300年！ゆかりの神社から浮かび上がる『古事記』の謎 『古事記』を読み解くうえでキーワードとなる地域や聖地を30ほどピックアップし、それぞれについてゆかりの神社や聖地・史跡を紹介するもの。							

書名	ふりさけ見れば 上 ふりさけ見れば 下			著者名	安部龍太郎／著			
出版社	日経BPマーケティング	ISBN	978-4-296-11748-2 978-4-296-11749-9	本体価格	各 ¥2000	発売	2023/7/21	
内容	遣唐使は日本の朝廷からどのような命を受けて派遣され、中国で何をしていたのか—— 2012年の直木賞受賞作『等伯』に続く、安部龍太郎氏の日本経済新聞連載小説は、対外的に「国家」としての土台を築き上げた8世紀・奈良時代の日本を、ユーラシア大陸・東アジアの中に位置づけて描いたスケールの大きな作品。安部氏の新たな代表作といっても過言ではない。							

書名	日本図書館史概説 新版			著者名	岩猿 敏生／著		
出版社	日外アソシエーツ	ISBN	978-4-8169-2973-1	本体価格	¥2,700	発売	2023/7/21
内容	古代から昭和20年まで、日本における図書と図書館(文庫)の歴史をその時代背景とともに通史的に詳説する概説書。近世以前の「文庫」の成立や時代背景まで取り上げて詳述。古書籍についての書誌学的記述や貸本など、広い意味での図書文化に関する記述も多く、幅広い知識を得ることができる。						

書名	疫病の古代史			著者名	本庄 総子／著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-05973-2	本体価格	¥1,700	発売	2023/7/24
内容	疫病の流行により多くの人命が失われた古代。それは単なる自然災害だったのか。藤原四兄弟が全滅した天平の大流行をはじめ、奈良・平安の都を繰り返し襲った事例を読み解くと、都市環境、食料生産体制、文化や倫理など、当時の社会の構造的問題がみえてくる。疫病対策や死者数の実態に触れつつ、ヒト社会の「隣人」ともいべき疫病の姿に迫る。						

書名	「六国史」に隠された日本の古代史			著者名	監修: 瀧音 能之		
出版社	宝島社	ISBN	978-4-299-04511-9	本体価格	¥1,300	発売	2023/7/26
内容	奈良・平安時代に、「日本書紀」「日本後紀」「日本三代実録」など、六つの勅撰史書「六国史」が編纂されました。「六国史」は天地の始まりから平安中期まで、国家の動向を連続して記録した古代史の根本史料ですが、最新調査により、古代の権力者たちが真実を隠そうとして改ざんした痕跡が多数見つかりました。本誌は最新調査に基づき、「六国史」に隠された古代史の真実に迫ります。歴史作家・関裕二氏の書き下ろしも収録。						

書名	天寿国繡帳の研究(新装版)			著者名	大橋 一章／著		
出版社	吉川弘文館	ISBN	978-4-642-01670-4	本体価格	¥27,000	発売	2023/7/27
内容	聖徳太子の死後、その妃橘大郎女が天寿国に往生した太子の姿を偲び、刺繍によってつくらせた奈良中宮寺所蔵の国宝「天寿国繡帳」。現存する繡帳の断片や鎌倉時代の文献をもとに、はじめてその原形を解き明かし、制作年代を推古朝末ごろと推定するなど、飛鳥仏教美術の貴重な遺品の実態に迫った画期的な名著を待望の新装復刊。巻末に補論を付す。						